

3 鶏コクシジウム病、マレック病混合感染症清浄化の取組

大分県宇佐家畜保健衛生所 ○南部^{なんぶ}雪江^{ゆきえ}
大分県大分家畜保健衛生所 足立^{あだち}高士^{たかし}

【はじめに】管内肉用鶏飼養農場において、鶏コクシジウム病、マレック病(MD)の混合感染症と診断した事例に遭遇し、環境改善等の対策を行ったところ改善効果がみられたので、病性鑑定結果と併せて報告する。

【農場概要】当該肉用鶏農場は平飼（鶏舎数2棟）で、総飼養羽数約7,000羽、出荷日齢は90～100日齢で、無薬鶏生産農場である。1鶏舎内で日齢の異なる鶏群を、仕切り板で数区画に仕切り飼養している。150羽程度の少ない羽数を定期的に出荷するため、鶏舎全体をオールアウトできない飼養形態である。

【発生概要】当該農場にて、平成27年2月、5月、6月に死亡羽数・発育不良鶏が増加したため、病性鑑定を実施したところ、鶏コクシジウム病と診断されたため、その対策を実施した。その結果、成績は一時回復したが、再び発育不良鶏が増加し、同年12月に病性鑑定の依頼があった。

【病性鑑定成績】平成27年2月24日(病性鑑定①)、5月15日(病性鑑定②)、6月17日(病性鑑定③)にそれぞれ3羽、2羽、4羽の病性鑑定を行った。①、②は鶏コクシジウム病と診断したが、③では、2/4羽に大小様々なリンパ様細胞の浸潤性増殖が認められたため、「鶏コクシジウム病とマレック病との混合感染症を疑う」と診断した。

再度死亡羽数の増加した平成27年12月17日(病性鑑定④)、平成28年2月3日(病性鑑定⑤)にそれぞれ2羽、3羽の病性鑑定を実施。その結果④、⑤のいずれも「MDと鶏コクシジウム病の混合感染」(④は疑う)と診断し、MDの所見は④では1/2羽、⑤では全羽であり、特に⑤では臓器・環境材料の全てからMDV1型遺伝子が検出された。

【対策】①～③の結果を受けて、鶏コクシジウム病対策として、消毒薬の変更や鶏舎内全部の石灰乳塗布などの飼養管理の改善を中心に対策を実施した。その後、④、⑤の結果を受け、MD対策として、ワクチン免疫成立までの間の隔離飼養・MDワクチン変更を実施した。隔離飼養は、在来鶏飼養区画(本区画)と離れた場所に、3m×6m区画を2区画作り、初生～2週間ほど隔離飼養した後、本区画に移す方法で行った。MDワクチンは、⑤でMDV1型遺伝子が検出されたため、従来使用していたマレック病ウイルス2型・3型(MDV2型、3型)の混合ワクチンから、MDV1型・MDV3型の混合ワクチンに変更した。

【結果・考察】上記対策を実施した結果、出荷率はほぼ回復した。

本農場は無薬鶏生産農場であり、抗生物質を使用できないため、飼養環境の改善をメインに対策を実施した。当初、死亡羽数増加の主因は鶏コクシジウム

病かと思われたが、MD も関与しており、2 つの疾病の対策を行うことが生産性改善に重要であると考えられた。